

12月になり、羽合小学校の周りに冬の渡り鳥が多く見られるようになりました。開けた土地の真ん中にある羽合小学校のプールが休憩場になっているかのように、多くの鳥たちがプールサイドで羽を休めています。先日「校長先生、コウノトリを見ました」と報告に来てくれた子どもがいました。以前、新聞に（コウノトリ専門員でもある本校の杉本先生からの）投稿もあり、時間があれば外を見ているのですが、まだ目撃にまで至っていません。幸せを運んでくれるコウノトリ。まだ実物を見ていない私も、ぜひこの目で見たいと思います。

「なんちゅうええ子 ほんにええ子」

私が教頭の時、泊小学校の校長先生の口癖でした。「なんちゅうええ子」「ほんにええ子」と子どもたち一人一人と言葉を交わすたびに言っておられたのを思い出します。時には校長室で「行儀」をする大きな声も聞こえてきたりすることはありましたが、子どもたちにとって、本当に大好きな校長先生でした。

以前に読んだことのある、ある先輩校長の本の中に、こんな文章がありました。

子どもが求めているのは、口先だけの褒め言葉ではなく、親が、先生が、本気で喜んでいるということです。太陽に草木が伸びるように、子どもは喜びの方に伸びていく。子どもは本来伸びていく力を持っています。私たち大人は、気になることばかりに目が行きがちです。そしてガミガミ。親として、教員として譲れない、引いてはいけないところがあります。しかしそれ以上に、子どもたちの周りにいる私たちが、子どもの成長を心から喜び、子どもを認め褒めてやるのが大切だと思っています。そんな環境の中で子どもたちは芽を出し伸びていく。我々大人のできること、なくてはならない役割ではないかと思っています。

先日、人権教育参観日がありました。講演会には多くの保護者の方に参加していただきありがとうございました。講演会では、講師の方から「自尊感情を育てていく」という話を聞かせていただきました。「行って帰ってくる」ことを繰り返し、子どもは自信をつけていくという話をされました。子どもが行く（挑戦する）のは好奇心から、失敗しても成功しても帰ってくる場所は家族のもとです。子どもたちは家庭をベースにして育っていきます。

以前の学校だよりに次のようなことを書きました。

- ① 子どもの話を真剣に聞く
- ② 小さな成功体験を積み重ね、ほめる
- ③ 頑張りを認める
- ④ どんな時もあなたの味方だよと伝える
- ⑤ 感謝のことば「ありがとう」を子どもに言う



友だちや家族の関わりの中で、子どもはいろいろな経験をして、自立した大人へと成長していきます。成長途中にある子どもが前を向き安心して歩いていけるように、失敗したのも大丈夫だよと言えるように、帰ってくるところがあるように、まずは家庭で、そして学校でも私たち周りの大人がしっかりと支えてやりたいと思っています。